

ギャラリー ⑤

このコーナーでは、市で所有する絵画を紹介します。

「滝尾神社・鳥居」



五百城文哉作
水彩・紙 46.7cm×62.7cm
小杉放菴記念日光美術館所蔵

どこかで見たことのある景色ではないでしょうか。鳥居の上部に空いた丸い穴を見て、すぐに滝尾神社の運だめしの鳥居だと気付いた方もいるでしょう。

五百城文哉(1863～1906年)は、現在の茨城県水戸市に生まれ、上京後、高橋由一(明治初期の洋画家)に西洋画を学びました。1892年、翌年のシカゴ万博出品作「日光東照宮陽明門」を描くために日光を訪れ、この地を気に入り永住しました。日光では、社寺などの鮮やかな水彩画を数多く残しました。また著名な学者や登山家たちと行った高山植物研究の際に描いた植物画は、日本のボタニカルアート(植物の精密画)の先駆けとして近年高く評価されています。

作品は、手前の大きな杉から鳥居へと進み、奥の楼門へ自然に目が運ばれる構図になっています。絵を眺めていると、苔むした石畳を通過して、本殿へ向かう参拝者の気持ちにさえなってきます。このように、五百城は写実に優れているだけでなく、風景を包み込む「空気」をも描くことのできる、卓越した技術の持ち主でした。

日光市の文化財 29

所野の獅子舞

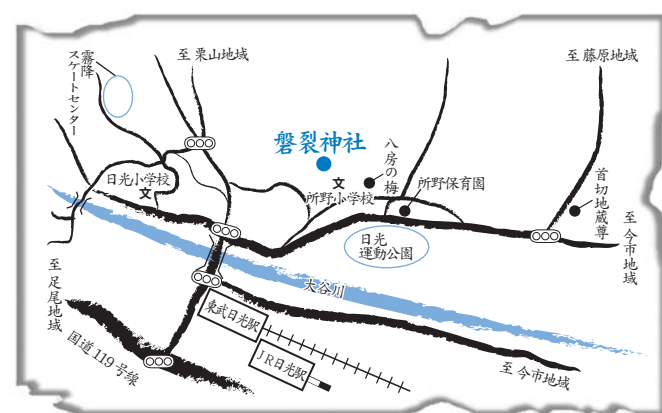


【種別】無形民俗文化財
【所在】日光市所野
昭和54年3月15日旧日光市指定

所野の獅子舞は、宇都宮市関白町に伝わる関白獅子舞の流れをくむものとされています。安政二(一七七三)年に関白町より伝来したとする説と、文久年間(一八六一～一八六三年)にかけて、同地の青木寛十郎が伝えたとする説があり、天下一青木流を名乗っています。

この獅子舞は、用具の新調に関する帳簿など史料が多く残されており、栃木県の民俗芸能を研究する上で、価値の高いものです。

かつては、所野の鎮守である磐裂神社で、盆や八朔(八月一日)など年に何回も上演されていましたが、後継者不足により昭和二十七年ごろに途絶えてしまいました。しかし、平成八年に地元の人々の尽力によって再興され、近年では多くの見物客が訪れるなど盛況を見せています。



図書館の本を観察しよう

今回は、図書館の本の仕組みについて説明します。

図書館の本を見ると、書店に並んでいる本とは違うところがあります。大きく違う点は次の3つです。

①表紙と本体が透明シートで覆われています。本は、多くの人に利用され、多いものでは年間10回以上も貸し出されます。本を長く利用できるように、透明シートで覆い、汚れたり傷んだりしにくくしてあります。

②図書館名のついたバーコードが貼ってあります。これは、本を管理するためのものです。本にはそれぞれ異なる番号とバーコードがついています。これを機械で読み取ることで、貸し出しや返却の手続きが早くできるほか、パソコンで本の情報(作者や本の出版年など)を引き出すこともできます。



③背表紙の下の方に背ラベルがついています。背ラベルは、「請求ラベル」とも呼ばれ、図書館にある本の「住所」を表す大切な役割を果たしています。市の図書館では、3段ラベルを使用しています。1段目に書かれている番号は「請求番号」といい、文学や歴史、芸術など本の内容を番号別で示しています。2段目は「図書記号」といい、多くの作者の姓の頭文字となっています。3段目に書かれている番号は巻数です。上・下巻の場合は「1」「2」となります。各図書館には、数万冊という膨大な数の本があります。その中から、皆さんの希望する本をすぐ探せるように、背ラベルの表示ごとに所定の位置に整理しています。

図書館の本は、探されて貸し出され、返却されて棚に戻されます。それらをスムーズに行えるよう、このような工夫が隠れています。

市民文芸

川柳 選者 日野原元児

感動が褪せないようにラッピング

独り酒今日は記念日だったはず

言い訳を省けばただの棒グラフ

たたかれてなおたたかれておひとよし

風呂敷に包みきれない母の秋

アドリブに弱い私の長ゼリフ

かすみ草ばかりで告げる愛もある

俳句 選者 須藤火珠男

闘志なほ胸にはぐくむ雲の峰

花筏一寸法師をのせ給へ

風鈴に一句認む軒端風

紫電一閃どつと降り出す夕立かな

実梅漬香りとひし一日かな

緑陰に微笑み優し羅漢さん

空蟬のしがみついてる野の面積

短歌 選者 阿久津伸一

会う度に男の孫無口となりゆきて意

志もつ顔をするを寂しむ

ひなの地に年古り棲めば緑縁と冷た

き水に足らう生身か

沙羅の花うつむき咲けど散り落ちて

芝生に浮かぶみな上向き

初どりの茄子朝つゆに手をそめんば

かりつやめく濃き瑠璃色に

とり込める洗濯物に陽の匂い梅雨の

晴れ間の明るき午後

霧雨にけぶりて咲ける野薔薇の眞白

き香り掬いて唄げり

庭先に地藏尊祀りて十三回忌多発の

事故も慈悲につつまれ

作品を募集しています!

川柳・俳句・短歌のを募集しています。氏名(ふりがな)、住所、電話番号を明記して、ご応募ください。
応募先及びくわしくは
秘書広報課 広報広聴係
☎(21)5135・FAX(21)5109